

ゴッホってなんだろう？

What is Vincent van Gogh?

毛利悠子

Yuko Mohri

-
0

ヴィンセント・ヴァン・ゴッホの作品は、仮想世界を一度通りぬけることで、これまでとは違った表情を見せるかもしれない。

昨今の美術館は、莫大な資金を投入し、絵画のコレクションを高性能デジタルカメラで撮影・アーカイブ化し、誰もが閲覧できるようにウェブで公開している。また、世界遺産である建造物をまるごと3次元スキャナでコンピュータに記録し、仮想世界のなかにその形状を実装することも可能になっている。

このように、人文系の分野でも、できるだけ正確に元の素材をコンピュータにデータとして取り込むような、科学技術の再現性が重要視されるようになってきている。そこでデータ化されたものは、ツールの条件さえそろえれば、誰もが均等に見たり聞いたり、体験できなければならない。誰もが経験できる技術をめざす工学分野全般では、日々、関数や機器の研究が重ねられ、上記のように古くからの「芸術品」をデジタルに置き換えて永久保存することがたしかに可能にはなっている。

しかし、冒頭で述べたゴッホの作品が見せる「違った表情」とは、その絵を高度な電子機器を使って保存すること自体にあるのではなく、その保存されたデータが、ある条件をもとに何かしら特別な“物質”として体験されることを指している。

以下の文章では、この、仮想世界に込められた特別な体験について考

えてみたい。

-
1
-

ゴッホの有名な作品《星月夜》(1889) [fig.1] は、夜空の景色が特徴的な渦を巻いたタッチで描かれた絵画である。

例えば最先端の非接触の3次元スキャナでこの絵画を走査すると、彼の

特徴的な絵の具の盛りはコンピュータのなかでミクロン単位のデータとして取り込まれる。すでにその時点で、数値化された絵の具の盛りの状態から、ゴッホがどのような質の筆や絵の具を使っていたかを推測することができるだろう。さらに、絵の具のたまり具合やハネ具合から、筆がキャンバスにどのような状態で接触していたのかもわかる。そして、そこからストロークを分析することによって、ゴッホがどのように筆を動かしたかを推測することもできる。その動きからは、現実のゴッホの腕の動きまでも推測できることになる。このように推測された彼の身体は、その時点で仮想空間のなかで実走(run)しているはずだ。

では、そこで実走しているゴッホの身体とは、どんなものであろうか。

-
2

かつてゴッホは、ゴーギャンとの生活に終止符を打った後、精神状態が不安定になり、てんかんと診断され、自ら病院に入院したという。そんな精神状態と、薄暗い病院の小さな窓から見える夜景が《星月夜》の激し



fig.1—フィンセント・ファン・ゴッホ《星月夜》(1889)
引用出典=http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/c/cd/VanGogh-starry_night.jpg